

大学院と研究の充実

歯学部将来構想検討部会 平成 22 年 8 月 16 日

歯学部運営会議報告 平成 22 年 9 月 6 日

学務委員会歯学系部会 平成 22 年 9 月 7 日

歯学系会議（研究科）平成22年9月13日

近年、「歯科基礎医学の進展が深刻に危ぶまれている（中教審大学分科会、平成 22 年 5 月報告）」。これは、教員数の削減、研究費の減少、学生の基礎研究に対する志向の低下（研修医制度の導入、病院歯科及び研究職ポストの減少等による大学院進学率の低下等が原因）などに依るものであり、また学部入学定員の縮小が控えているため近い将来での改善は期待できない。よって岡山大学歯学部（歯学系）として組織的に対応策を講じる必要がある。

幸いな事に歯学部基礎系分野の研究は、臨床系分野と協力して行って来た経緯がある。これは創設以来歯学部が、限られた人員とスペースであったためでもあるが、くしくも口顎領域に場を置いた臨床系-基礎系が一体となった研究が進展することとなった。ここに医学部とは異なる歯学部基礎系分野のアイデンティティと必要性が認められる。今後もこの特徴を活かし、大学院教育と研究を進展させ、将来のライフサイエンス・イノベーションを担う人材を育成しなければならない。

第一歩の施策として、臨床系と基礎系が共同して行なう大学院教育（旧来慣例的に行なわれた主任教授と指導教授による研究指導）の現状を踏まえて制度的に目に見えるものにする。